

## 兒島 由佳 氏の学位審査結果の要旨

主査：谷川 昇

副査：齋藤 貴徳、楠本 健司

放射線治療は頭頸部がんに対する代表的治療法であるが、有害事象の一つに放射線性顎骨壊死（以下 ORN）が挙げられる。ORN は腫瘍の再発や残存がなく、照射部位に 3 か月以上にわたる治癒しない骨露出と定義される。発症率は低いですが自然治癒はなく顎骨の外科的な切除が必要となる。その予防には放射線治療前の抜歯が推奨されるが、抜歯対象歯の明らかな定義はない。本研究の目的は放射線治療後の頭頸部がん患者において、歯科的所見と ORN の発症の関連性を探求し、新しい口腔マネジメント方法を提案することである。

頭頸部癌で放射線治療を受けた 392 人の患者を対象として、様々な治療因子、腫瘍因子、患者因子と ORN との関連を多施設共同後ろ向き観察研究にて調査した。その際、累積 ORN 発症率を Kaplan-Meier で算出、Log rank 検定および Cox 比例ハザードモデルにより統計学的解析を行った。結果は 392 人中 30 人に ORN が発症し、23 人は下顎の臼歯部に発症した。単変量解析では、口腔・中咽頭癌、顎骨に対する 50Gy 以上の線量、根尖性歯周炎、放射線治療後の抜歯が ORN の発症因子であった。そのうち多変量解析では口腔・中咽頭癌、根尖性歯周炎、放射線治療後の抜歯が独立したリスク因子であった。本研究は頭頸部癌の放射線治療患者において歯科的所見と ORN 発症との関連性を明らかにし、ORN 発症予防に新たな知見を加えるものであり、博士（医学）の学位に値すると判断した。